

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	メディアリテラシーB		
英文授業科目名	Media Literacy B		
開講年度	2006年度	開講年次	2年次
開講学期	3学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択科目		
開講学科・専攻	知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	池田 諸苗		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
MORONAE.IKEDA@hakuodo.co.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>日本の総理大臣は誰だか知っていますか？ そう、小泉純一郎さんですネ。写真を見てもすぐにおわかりでしょう。 それではお聞きします。「小泉首相はあなたを知っていますか？」 みなさんの顔写真をご覧になっても、おそらく小泉首相はご存じないでしょう。 なぜでしょうネ？ 実は、皆さんが小泉首相を知っているのはメディア（主にマスメディア）を通じてだからなのです。 皆さんは、これまでの20年前後の半生で、実は驚くほど多くのことを「メディアを通じて」知ってきたのです。いや「知っているつもりになっている」という方がより正確かもしれません。 それではメディアを通じてみなさんが得ている情報は、100%正しいのでしょうか？ メディアを知り、メディアに乗る情報の作られ方・流され方を知ることで、みなさんそれぞれが、メディア経由の情報を評価できる力をつけること。これがこの講義の主題であり目標なのです。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p>
メディアリテラシーA

<p>【教科書等】</p>
特に事前には定めませんが、講義内容に従って、必要な参考図書等をお知らせします。

電気通信大学 平成18年度シラバス

【授業内容とその進め方】

主に、次の三つのパートで半期の授業を構成します。具体的なプログラムは、第一回の授業でガイダンスいたします。

(1)基礎知識

マスメディア（主に新聞とテレビ）および広告について、産業としてのメディア及び関連業界の概括的な基礎知識を得る。

(2)報道分析

マスメディア報道の比較分析ケーススタディおよび情報作りの実体験を通して、「メディア経由で伝えられる情報」が、「いかにして作られ、流されているのか」を実感する。

(3)パッケージ作品分析

パッケージ化されたコンテンツ（ドキュメンタリー、ミュージック・ビデオなどから、適宜素材を選びます）を通じて、制作意図、情報の組み立てとその表現テクニックを学びます。

毎回、15分程度で記入できる簡単なアンケート等に記入していただき、これを以って出席カードに代えます。回答内容は、次回以降の講義に反映させることを基本とします。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席40%、講義への参加積極性(上記アンケートへの取組姿勢を含む)40%、期末試験20%

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けません。E-Mailはいつでも歓迎。また希望者には、予約制によるオフィス訪問を受け付けます。

【学生へのメッセージ】

(1)まじめに出席してキチンと聴講すれば、必ず上記目標が達成できるような講義内容にします。7月には、みなさんは受講前に比べて驚くほどのプロになっていることでしょう。

(2)私は「教える」つもりはありません。私の講義の基本方針は「教育」ではなく「発育」です。みなさんが一所懸命に「学び、考え」そして「自ら育とうとすること」を、誠意を以って応援します。

【その他】